忘るまじ 東日本大震災

次号から元二管警救部長がコラム

2011年3月11日午後2時46分、あの地震発生から11年となります。

当時、4月1日付で本庁運用司令センター所長への内命を頂いていた私は、三管本部警救部長室で引き継ぎ資料の整理をしていました。その時のことは今でも鮮烈に覚えています。隣の部屋の書架が倒れる音を聞きながら、飛び出さんとする両袖机の引き出しを懸命に押さえるのが精いっぱいで、一歩も動けずにいました。そこから始まる東日本大震災への対応は、以後の人生においてかけがえのない貴重な経験となりました。

海上保安協会は昨秋、2021年度海上保安フォーラムのテーマを「東日本大震災から10年～教訓と今後への備え～」として、震災対応の最前線にいた元二管本部警救部長の近藤悦広氏に「東日本大震災　その時何が起こったか」を演題に発表していただくこととしていましたが、コロナ禍により日の目を見ることはありませんでした。

最近ある方から聞いた、「自らの経験を後進に引き継ぐ」という視点で、近藤氏のフォーラム用資料を見直していたところ、まさにこれこそ後進に引き継ぐべき先輩の経験だと思い、近藤氏に寄稿をお願いし、快諾していただいた次第です。

次号から、近藤氏の貴重な経験を「忘るまじ東日本大震災」として短期連載します。また、連載終了後に近藤氏の発表資料を協会のホームページに掲載します。協会は、海上保安新聞による海上保安思想の周知啓発を事業としています。本コラムから何かを感じていただければ幸いです。（海上保安協会常務理事・宮野直昭）